

## 時代に足跡を記した大先輩・その1

### 日本工業デザイン界のパイオニア 豊口 克平 (とよぐち かつへい)

来年(2014年)、秋工は創立110周年を迎える。その一世紀を遥かに越える年月が輩出した数多くの同窓の中には、時代に確かな足跡を記した方々が多く存在する。しかしながら、分野あるいは業界の違い、興味の鋒先といったことが理由となって、そういう方が同窓にいたとは…ということはまあある。

「金砂」Vol.13で、門脇 隆氏(S40C)の寄稿により紹介された 天野 芳太郎氏(大正5年機械科卒／その足跡の詳細については「金砂」Vol.13-p10参照)の場合もそうだったように、そうした、知る人ぞ知る著名な同窓・大先輩の存在を認識することは、母校への、あるいは秋工同窓であることへの誇りを高める一つとなることは言うまでもないことと思う。

「タロンペ」では、一時代前に活躍された、知る人ぞ知る著名な大先輩にスポットを当て、紹介していきたいと考えている。

その第1回目となる今回は、日本の工業デザイン界のパイオニア、またインダストリアル(工業)デザイナーの草分けの一人として、デザイン界に広くその名が知られている 豊口 克平氏(大正12年機械科卒)にスポットを当てる。

#### ●豊口氏経歴

1905年(明治38年)11月、秋田県鹿角に生まれる。

1923年(大正12年)、秋田工業学校機械科卒業。

1928年(昭和3年)、東京高等工芸学校工芸図案科(現千葉大学工芸意匠学科)卒業。形而工房(家具、生活用具の近代生産化を目指す研究団体)の設立に参加。

1933年(昭和8年)、商工省工芸指導所(現独立行政法人産業技術総合研究所)へ入所、仙台工芸指導所勤務。戦後は通産省工業技術院意匠部長。

1955年(昭和30年)、桑沢デザイン研究所教授に就任。

1960年(昭和35年)、(有)豊口デザイン研究所を設立(前年開設の豊口デザイン研究室を改称)。同年、武蔵野美術大学工芸工業デザイン学科主任教授に就任。以後、日本インテリアデザイナー協会、日本インダストリアルデザイナー協会の各名誉理事、(財)工芸財团理事長を歴任。

1975年(昭和50年)に第3回国井喜太郎特別賞、翌1976年(昭和51年)には勲三等瑞宝章を受賞。

1991年(平成3年)、逝去。享年85才。

豊口氏は東京高等工芸学校卒業後、恩師である 蔵田周忠氏(建築家／多摩聖蹟記念館の設計に携わったことで知られる)を柱に同校卒業生で結成された、伝説のデザイン研究団体「形而工房(けいじこうぼう)」の設立に参加する。「形而工房」は約10年ほどで自然解散してしま



うが、先駆的な取り組みの数々は日本の近代デザインの発展に大きな影響を与えた。またその活動手法は80年以上過ぎた今もデザインにおける一つの規範とされている。

豊口氏の大きな功績の一つに、椅子の支持面の機能や座面の快適性等の実験・研究による家具の標準化がある。これらは後に千葉大学の研究室に引き継がれ、JIS化されて家具デザインの基礎データとなるのだが、こうした実験・研究は豊口氏が仙台にあった商工省工芸指導所にいた時期に行われたもの。戦後のまだ測定機器などない時代、雪の上に座って人型を取り、座り心地への配慮のためのデータなどを集めたことは、語り草になっている。

デザイン界の有名な逸話がある。1951年、アメリカの視察から帰国した稀代のカリスマ経営者 松下幸之助氏(松下電器創始者)が会見で、「これからは、デザインや」と興奮気味に語り、この発言が日本の工業デザイン飛躍の契機になったというもの。

それまでの産業デザインの活動は国の施策下にあるものだった。豊口氏のいた産業工芸試験所(旧商工省工芸指導所)はその牽引役として東芝をはじめ多くの企業からのデザイン依頼を受ける場所でもあった。だが松下氏の発言以降、急速に大手企業のデザイン部門設立の動きが進んでいく、デザイン活動の主体は企業へと移っていくことになる。

1960年、豊口氏は自身のデザイン研究所を設立すると同時に武蔵野美術大学の教授に就任する。これは、デザインの主体が企業へと移ったことで自身の役目が一区切りしたことの自覚と、これからデザイン界には企業で活躍できる後進のデザイナーの育成が必要であることを感じたからであろう。この後進デザイナーの育成もまた、豊口氏の功績の一つなのである。

数多くのデザインを手掛けた豊口氏だが、作家的創作ではない共同作業を旨としていたため、氏の代表作と言い切ってしまう作品は少ない。だがこれは、という作品があるので紹介しておきたい。



1963年に発表された「スポートチェア」と命名された椅子。あぐらのかける椅子とも言われ、日本の生活習慣を取り入れた名作として、内外から高く評価されている。現在、天童木工による復刻版が販売されている。

インダストリアルデザイナーには美術系と工業系の2タイプがいると言われる。豊口氏はあきらかに工業系タイプ。その素地にあったのは秋工で勉強した日々ではなかったのだろうかと思えるのだが、どうだろう…。

#### ◆記事

**船木 一美 昭和48年機械科卒**  
会報「金砂」副編集長

## K.F's Design Gallery

テクニカルイラストレーションは、デザインにおける大切な表現手段の一つ。私が得意とするデザイン関連テクニックの一つでもある。現在では比較的簡単に3D図が描けるソフトもあり、半自動的に描きあげることもできる。が、人の感覚がより多く反映される、手描きに近い技法を駆使して描くものとは、やはり違う。だからだろうか、今でも時折、テクニカルイラストレーションの依頼がある。

プロダクトプランナー&デザイナー 船木 一美  
(昭和48年機械科卒)

P&D\_KFworks | プランニング&デザイン ケーエフ・ワークス

埼玉県新座市野寺5-6-20 〒352-0034  
携帯.090-3049-7291  
E-mail kf-works@sea.plala.or.jp

## Technical Illustration

Drawing by K.Funaki

